

小野水産株式会社
 紋別郡興部町字沙留73番地3
 TEL.0158-83-2016
 FAX.0158-83-2245

- 設立 平成25年1月14日
 資本金 1,000万円
1. 紋別市渚滑町1丁目太陽光発電所（出力556kW）
 2. 紋別市渚滑町8丁目太陽光発電所（出力612kW）
 3. 新設／興部町太陽光発電所（出力1,218kW予定）

平成27年1月稼働予定の興部町太陽光発電所
 パネル数290W×4,200枚



「工場の電気代は上がる。燃料代も上がる。人件費も含め値上がりしないものが何一つないこの時代に、自分でできることは何かと考えていたら『重油は自分でつくりたいけど太陽光発電による電気ならこの地域でもつくれるな』って思っただけで、そこでまず工場で43kWの太陽光発電システムを導入し手応えをつかみました。早速、紋別市の旧道都大学野球場跡を利用したメガソーラー計画書を提案したのです。ところが大手の参入に阻まれ実現できませんでした。」

小野さんは、その悔しさをバネに同市の土地の2カ所を利用して、各500kW以上、計1メガワット超えの太陽光

発電システム設置に奔走し、そのための資金調達をはじめ建設、運営、保守を一貫してこの地域で行い、現在順調に北海道電力㈱に売電を続けています。

さらに、このほど3基目となる大規模なメガソーラー（1,218kW）を興部町内に建設し、後は配線を高圧線に繋ぎ、開閉スイッチをオンにさせれば、いつでも稼働可能な体制を整えました。

「できることは何でも自分でやるので、草刈りもやります。うちはホタテを扱っている性質上、他の方から『あら、あそこ会社食べ物を扱っているのに汚いわ』なんて言われたくないですから、見えないところでも進んで汗をかきます。この地域で勝負するためには、どんな厳しい目に晒されても恥ずかしくないよう

正直にやるだけなのです。この沙留という場所です。長く信用をいただくためには嘘をつかず、ただ黙々と義を通し続ける以外ないのです。結果は自ずとついて来るでしょうから。」

岬に向けてオホーツクからの冷たい水が流れ込む沙留の海は、豊富なプランクトンが回流する漁場。ホタテはこの海に地撒きし、約4年自由泳で育てます。運動量の豊富な沙留育ちのホタテは、天日干された後たっぷりと旨味を蓄えます。

太陽光発電事業は15年、20年、25年とホタテ以上に長い年月をかけてここの地で育てる産業です。電気という恩恵が、いつか豊穡の海、あるいは肥沃の大地さながらの大きな幸をもたらすに違いありません。



私のポリシー
「正直にやるんだよ。」

小野水産株式会社
 代表取締役
 Ono Yuta
小野 優太さん

●昭和49年興部町生まれ。稚内北星学園短期大学卒業。TV局や映像制作会社を経て、平成22年に家業を継承。平成25年1月同社を設立。



北の経営者に聞く……興部町

ホタテを扱う事業者がソーラーパネルを設置し、太陽光発電に挑戦！ 融資、建設、運営、保守を二貫して地域で行う、完全地場の発電所。

地域への強いこだわりが、沙留の雇用と経済を支え、再生可能エネルギーを生んだ。

一つの時代が終わりを告げようとしていた頃。昭和最後の年、同63年10月に興部町開基百年記念誌が発行されました。パラパラとモノクロの歴史ページをめくると、明治期の戸長役場時代に「ほたて干場」と解説される古い一枚の写真が掲載されていました。それが、興部町沙留で五代続く小野漁業。

小野漁業の変遷は、ある意味では余りにも歴史があり過ぎて、分かり難いものになっていきます。メインとなる魚種も次々に変わり、初代は主に鮭定置。二代目は釧路定置で150人のやん衆を雇う大きな網元でした。三代目、すなわち祖父はスケソウとすき身に精を出し、四代目となる小野さんの父の代になって初めて船を手放し、加工場として特化しました。工場は昭和47年に完成。同53年には、屋号を小野漁業から小野水産加工所と改め、父の死去に伴い、平成22年6月に、五代目として小野優太さんが継承しました。その間、沙留漁業協同組合の組合員とし

ての権利は、組織ではなく常に個人に受け継がれて来たため、現在も小野水産加工所はあくまでも個人事業主として仕事を請け負っています。それでありながら雇用者は多く、24名が名を連ねています。

「うちの従業員はみなさん古くて、一番の若造が私と言ってもいいくらいなのです。平均雇用期間は40年。中には60年勤務というおばあちゃんもいますよ。親子で、あるいは三代続けて、なんていうのもザラです。扱っているのはホタテ（生から干し貝柱に加工）ですが、他の地域で見られるような中国人研修生など外国人労働者は一人もいません。すべてこの地域に生きる人達で、みなさん沙留の漁師さん達の奥さんです。私にとって最も重要なことは、生産も加工も雇用も一貫してこの地域で行いたい、そこに強くこだわって事業展開を追求していった時、自然と太陽光発電に辿り着いてしまったのです。」

小野さんは続けます。「地域で生きようと思ったら、自分だけが良ければという発想は通用しませ



平成25年4月稼働開始／渚滑町1丁目太陽光発電所（紋別市）
 パネル数290W×1,920枚



平成25年10月稼働開始／渚滑町8丁目太陽光発電所（紋別市）
 パネル数290W×2,112枚

ん。自分は我慢してでも従業員のみなさんの給料を少しでも多く上げ、そして長く信用を第一に働いてもらいたいです。そのため、うちではかなりフレックスな勤務形態を認めています。みなさん漁師さんの奥さんですから、携帯に旦那さんから電話が掛かってきたら、それを手伝いに行かないワケにはいかないのです。ですから例えば『きょうはイカが揚がったから来れないわ』とか、『ごめん、昆布干しに行ってる』とか。そういう沙留地域の事情は全面OKなのです（笑）。